

講演

歯科診療におけるリスク評価と問診票の有効な活用について

大鶴 洋

●抄 録●

近年、合併症を有する患者が歯科治療を受ける頻度が多くなり、診療の最中に歯科医師が患者一人一人の全身疾患の全体像を把握することが困難な場合に遭遇することがある。

現在、医療安全の観点から多職種からなるチーム医療が望まれており、歯科においても同様と考えられる。問診票は、多職種間で活用を工夫することにより、リスク評価も含め歯科医療において欠かせないツールとなる可能性があることを提唱したい。歯科医院のスタッフは、患者を医療チームの一員と考え、患者に関する情報を診療受付から確実に歯科医師の元に伝えることが出来れば、さらに安全性は高くなる。

救急薬品の常備や救命処置の習得は偶発症発症後の対応であり、偶発症を減らすことは出来ない。歯科院内でのチーム医療の充実は、患者を含めた複数の視野から医療を進めることにより、偶発症発症を予防することに繋がり、患者安全に寄与するのではと考えられる。

キーワード：歯科治療、医療安全、問診票、医療チーム、偶発症

近年、全身疾患の管理の進歩とともに、全身疾患を有する患者が自宅で療養生活を送っている割合が多くなってきている。この傾向は歯科診療においても反映され、歯科医院において合併症を有する患者が治療を受ける頻度が多くなりつつあり、歯科においても医療を安全に遂行することに力を注ぐことが必要になっている。筆者は総合病院で歯科口腔外科を含めた診療を行っていることから、医科における医療安全管理に参加する機会を持ち歯科診療にも導入してきた。最近では医療安全の観点から歯科でも救急処置の講習会や勉強会も開催され浸透しつつあるが、これらは偶発症が

生じてからの対応である。安全は偶発症を未然に防ぐことから始め、安全管理は予防の対策から始まる。医療における安全管理は、大きく分けると問題発生時の対応（危機管理）と職員の安全管理に関する意識向上の取り組み（安全管理）からなる¹⁾。本稿では、両者の観点から問診票を有効に活用し、歯科医療における医療安全について触れてみたい。

問診票の活用

問診票は歯科診療室において、患者の医療情報収集のためには欠かせないツールとなっている²⁾。しかし、質問形式や患者の理解度により過去の歯科診療の状況およびアレルギー情報の収集以外においては、持病の把握にとどまっている場合もあると思われる。また、問診票は初診時に作成されることが多いため、何年も通院している患者の場合には、情報が古くなることが懸念され、患者の病歴として定期的に更新することが望ましい。

問診では、主訴から始まり個人情報、歯科病歴と医科



※冬期学会講師

(おおつる・ひろし)
独立行政法人 国立病院機構
東京医療センター 歯科口腔外科医長
医学博士

病歴、来院理由や歯科治療に対する希望等の確認を行うが、歯科医師の場合には医師と異なり、身体症状から病態を読み取ることが日常の診療業務でないため、医科病歴の問診に苦手意識があることが多い。このため、医科病歴の問診では、患者の記載した問診票をもとに全身疾患のスクリーニングも含めて処方されている薬の確認から、日常生活での身体の状態を聞き取る様にすると、聞き漏らしを防ぐことが出来ると考えられる。以下、問診票の一例を提示する（図1、2）。

1. 処方薬の観点から

1) 降圧剤

高血圧症は生活習慣病の一つで罹患されている方も多い。高血圧は、長期的には脳血管障害・心臓病・腎臓病などの最も一般的な危険因子であるが、歯科診療においては治療の最中に血圧の上昇がみられ困ることがある。血圧は、疼痛等のストレスや医療機関内では高くなる傾向があるが、血圧が高い場合には不安、緊

張の緩和、十分な除痛等の配慮が必要で治療内容の変更が必要なこともある。初診患者において、高血圧症が未治療で収縮期血圧が140mmHg以上、拡張期血圧90mmHg以上の場合には、侵襲の少ない治療から始めて、内科の受診を勧める。

2) 心臓病の薬

患者より良く聞かれる。心臓病とは、心臓弁膜症、心内膜炎、狭心症、心筋梗塞、心臓神経症などの病名で呼ばれるもので、心臓に栄養を補給する冠動脈が狭くなったり、詰まる、心臓自身の力が弱まる、心臓の鼓動が不規則になる等の病気の総称なので、心臓病の薬だけでは病態がわからず主治医に対診が必要な事もある。一般的には、主となる症状が、胸痛、動悸、呼吸苦であるのか聞いておく病態把握のきっかけになることがある。

3) 抗凝固、抗血小板剤

血栓症の予防または治療として用いられ、その血栓の部位によって病態が異なるので、問診が役立つ。循

診療を安全に行うために、わかる範囲でかまいませんので記載をお願いいたします。
年 月 日

お名前 _____

1. なにがお困りでしょうか。来院された理由をお願いいたします。

2. それは、いつごろからありましたか。

お体のことについてお聞きいたします。

3. 今までに、体に合わない薬はありましたか(尋麻疹などが出たりしたなど)。

4. 歯科で麻酔の注射を受けたことがありますか。その際に、異常を感じたことがありますか。
はい・いいえ (異常の有無)

5. 怪我をすると出血が止まりにくかったり、抜歯で血が止まりにくかったことがありますか。
はい・いいえ(出血に問題はありません)

6. いままで入院や手術を受けたり、いまでも通院されている病院はありますか。電話番号もわかれば記載をお願いいたします。差し支えなければ、病名もお願いいたします。
病名 _____
医院または病院名 _____
電話番号 _____

7. 服用されている薬もあれば記載をお願いします。お薬手帳や説明書をお持ちであれば見せて下さい。
血圧の薬(はい・いいえ・わからない)
心臓の薬(はい・いいえ・わからない)

図1 問診票の一例 (No. 1)
Fig. 1 An example of the Inetrview Sheet (No. 1)

血液の流れを良くする薬や血をとまりにくくする薬(はい・いいえ・わからない)
不整脈の薬(はい・いいえ・わからない)
胃の薬(はい・いいえ・わからない)
糖尿病の薬(はい・いいえ・わからない)
骨粗鬆症の薬(はい・いいえ・わからない)

日常生活におけるお体の状態についてお聞きいたします。

8. 身長 cm、体重 kg おおよそでも構いません。
血圧が高いと言われていますか。(はい・いいえ)
心臓の具合が悪いと言われたことがありますか。(はい・いいえ)
階段を上がるのはどうですか。(大丈夫・ゆっくりなら大丈夫・息切れしてしんどい)
動悸や胸が痛くなったことがありますか。(はい・いいえ)
糖尿病の疑いがあると言われたことがありますか。(はい・いいえ)
手足のしびれはありませんか。(はい・いいえ)
最近になって急に視力や聴力が悪くなってませんか。(はい・いいえ)

9. ご自身の体や健康面で気になること、診療にあたって伝えておきたいことがあれば記載をお願いいたします。

お聞きになりたいことが、ありましたらご遠慮なくおたずねください。

血圧と脈拍測定の結果

1回目	／	mmHg	、	回／分
2回目	／	mmHg	、	回／分

確認スタッフ _____
確認歯科医師 _____
年 月 日

図2 問診票の一例 (No. 2)
Fig. 2 An example of the Inetrview Sheet (No. 2)

環器疾患では、心房細動、弁疾患、心筋梗塞であることが多い。他には、脳梗塞、肺梗塞、頸動脈の血栓のため処方されていることがある。止血効果に影響する薬剤を服用されている場合にはそれぞれの病態を照らし合わせると病態が理解しやすい。患者が不整脈の薬と理解していることもある。

最近、ワルファリン等の抗凝固薬や抗血小板薬は適切にコントロールされていれば休薬を行わずに抜歯を施行することが推奨されている³⁾。

4) 胃の薬

鎮痛剤処方の際に、過去に鎮痛剤で胃の症状が出たかを問診する。症状があった場合には、鎮痛剤を頻回に服用しないように指示しておいたほうが良い。

5) 糖尿病薬

糖尿病の場合には、易感染性と低血糖発作に注意を要する。一般的に糖尿値のコントロールが悪い場合には感染が起こりやすく、感染している場合には血糖値は高めになりやすい。低血糖発作は、薬を服用またはインシュリンの注射を行っているにもかかわらず、食事の摂取量が少ない場合に起こりやすい。歯痛で食事摂取量が減っている場合、予約時刻に間に合わないから食事をしてこなかったなどが原因になることがある。毎回の治療の前に「食事は食べていますか。」と聞いておく習慣をつけるのが良い。糖尿病の治療を受けている患者が「気分が悪い。」と言った時は、まず低血糖を疑う。糖尿病に罹患している期間が長くなると、腎臓の障害や虚血性心疾患が隠れていることがあるが、眼底の血管状態が目安になるので眼科で眼底の検査を受けているかどうかを聞くのも良い。

6) 骨粗鬆症薬

ビスフォスフォネート製剤以外の薬もあるので、薬の区別が必要である。ビスフォスフォネート製剤の場合には、「服用したらすぐに横になってはいけません。」と説明されていることが多い。最近のビスフォスフォネート製剤は、週に1回の服用のことが多いので、その点が参考になることもある。

7) パーキンソン病等の神経内科の薬

歯痛で、患者が服薬を中断していると症状が強くなってくる場合がある。服薬を中断すると症状の悪化が見られることがあるので服薬を継続しているか聞く



図3 パルスオキシメーター

Fig. 3 Pulse oximeter

のがよい。

2. 日常生活における身体の状態から

- 1) 身長と体重 処方する時に必要な場合がある。
- 2) 心臓の具合は体動時にわかりやすい。階段を昇る動作で判断しやすい。簡単な動作でも心臓に症状を感じる場合には、無理のない範囲の治療に留めておくのが良い。
- 3) 胸痛の自覚がある患者では、発作時の薬を持っていることがある。
- 4) 手足のしびれや急に視力や聴力が悪くなってきた場合には、脳血管障害の可能性を考える。
- 5) 血圧と脈拍数

医療機関では、緊張のため血圧および脈拍は高めになりやすい。また、予約時刻に間に合うようにと急いで来ている時も高めになる。時には、少し時間をおいて測定してみることが望ましいこともある。血液の酸素濃度を指に挟むだけでチェック出来るパルスオキシメーターを併用すると、循環と呼吸の状況を把握しやすい。小型で簡便に脈拍と呼吸の状態を把握できるので使いやすい(図3)。最近では、値段も下がってきており医科の在宅診療でも用いられている。これらのバイタルサインは、患者個々に

より異なるので毎回の来院の度に記録しておく
と状況の理解に役立つ。

その他、今までに患者が感じていなかった症状の訴えがあった場合には、主治医の受診を勧める。

3. 診療室内での、気づいたことを有効に伝達出来るように工夫をして職種間の連携を有効に構築。

患者からの情報は、患者自身の治療の希望や時間の都合、治療内容の理解、体調、バイタルサイン、有している合併症、服薬の状況、食事摂取、過去の治療上での行き違いなど様々である。患者が来院してからいつ誰に言付けるかは、様々なのが現状ではないだろうか。患者にとっては、誰かに話せば伝わっているとと思う。患者が受付から帰宅に至るまで関わるスタッフは、自分の責任として自分の行為に責任を持つことが必要である。そのためには、聞いた情報は口答で伝えるのではなく、紙に記載して伝達するのが有効である。当院では、抜歯等の観血的処置の患者に限定しているが、処置前チェック用紙を運用している（図4）。これにより、看護師や歯科衛生士から歯科医師への伝達が円滑に行われている。この用紙は一定期間保存しておき、問題が発生した場合には検証することになっている。実際、歯科医師は患者の治療や説明に専念している場合が多く、伝達に不安が残る場合には、簡単なことでも

紙に記載し手渡す場合もある。伝達を受ける側として伝達事項を忘れやすいのは、口答のみで伝達された場合である。

医療安全はチームで創り、それは患者および医療機関の安全に繋がる。米国で医療ケアチームのパフォーマンスを患者の安全性を高めるためにつくられたTeamSTEPPSは患者との共同医療をとして、患者は医療チームのパートナーとして重要視している⁴⁾。歯科医院においても患者自身が安全確認に積極的に参加し、スタッフ全員が「患者安全のための眼」を持ち、お互いを尊重し、助け合い、良いコミュニケーションをとることが出来れば、歯科医院における安全性は高まると考えられる。たとえば、受付が来院目的を確認、デンタルチェアに座るときに名前を処置内容と体調を確認、局所麻酔を準備した時に体調と過去の局所麻酔について確認、歯科医師が治療内容を確認、終了時に次回の治療内容を確認、薬を渡すときにアレルギーの有無を確認など各職種の確認と患者への声掛けを列挙すれば限りがない。実際には、時間によるシフト制やパートタイムの職員までに医療安全の意識を維持することは予想以上に困難が伴う。しかし、全職種が安全を意識した確認を励行し患者への声掛けを行っていけば患者とスタッフともに安全性が高まり、最終的には院長の負担も減ると考えられる。確認事項が多いと当初は患者にも、戸惑いがあるかもしれないが、掲示をしたりして理解してもらえれば患者の安心にも繋がると思う。

4. 患者の体調に応じて、治療方針の再考を説明。

我々歯科医師は、歯の1本1本の歯の重要性を考えその上で1口腔単位での咬合の治療を考えている。しかし、時には患者の体調によって可能な処置もそれぞれである。患者の通院回数や治療可能な時間、患者個々に応じたオーダーメイドの治療が望まれことは臨床の現場ではたびたび遭遇する。患者が1本でも多くの歯の保存を希望するのは当然のことではあるが、時には説明に苦慮することもある。世の中では標準化が求められるこの頃ではあるが、高齢者が増える今後は、今まで以上に患者個々の状況を長期的に見据えた歯科医療が望まれるのではと考えられる。

処置前チェックシート (可能な範囲で記載する)

患者名: _____ 年 月 日

バイタルサイン
 血圧: (/)
 脈拍: ()

処置部位(番号): _____ (わかる範囲で) 右上 | 左上
 (カルテ記載より) | 右下 | 左下

詳細不明であれば、右 左、上 下 (○をつける)

術式: 抜歯、歯根端切除、嚢胞摘出、不明、() (○をつけるか記載)

患者の理解と 一致、不一致、確認不可 (○をつける)

抜歯等の処置の場合 同意書 (有・無・不明)

歯科医師へ伝えておきたいことがあれば記載(患者の状態など)。

(確認者サイン))
 (歯科医師サイン))

図4 処置前チェックシートの一例
 Fig. 4 An example of the check sheet before dental treatment

参考文献

- 1) 古屋富士子：医療安全 危機管理から安全管理へ 安全管理を文化として根づかせるための医療安全管理者の関わり、医療、64(2)：124-127, 2010.
- 2) 楡井喜一：治療計画、その前に… 術前資料収集テクニック（第1回）問診 患者から必要な情報を聞き取るコミュニケーション法、Quintessence of Dental Technology、36(1)：62-74, 2011.
- 3) 日本有病者歯科医療学会、日本口腔外科学会、日本老年歯科医学会編集、抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン2010年度版、学術社、東京、2010、1-2.
- 4) 住吉蝶子：TeamSTEPPSの基本原則 ①チーム体制 (Team Structure)、ナースマネージャー、12(8)：97-103, 2010.

An Effective Risk Evaluation by the Interview Sheet in the Dental Practice

Department of Dentistry and Oral Surgery National Tokyo Medical Center

Hiroshi OHTSURU, D.D.S., Ph.D.

As a recent phenomenon, patients with a complication have tended to more frequently receive dental treatment. On those occasions, dentists during practice, sometimes encounter difficulties in grasping a total perspective of each patient's systemic illness.

Currently, the concept of team medicine consisting of various professional fields from the standpoint of medical safety needs to be introduced. In the arena of dentistry, too, this is thought to be desirable. I would like to propose that interview sheets will become a necessary tool in dentistry for risk evaluation in devising its usage among a variety of professions. If the staff of a dental clinic can securely deliver, regarding a patient as a member of the medical team, information on the patient to the dentist from the time of treatment reception, safety will further be improved.

By preventing or reducing the occurrence of accidental illnesses, the need for such follow-up measures as first-aid medicine or emergency medical treatment will be lessened. Enhancing team medicine within a dental clinic can surely reduce the occurrence of accidental illnesses, through developing medical care from multiple viewpoints, including patients themselves, consequently contributing to the safety of patients.

Key words : Dental treatment, Safety management of medical practices, Interview sheet, Medical team, Accident